

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	選抜文系	2	体育科教員
教科書	現代高等保健体育体育編				
副教材					
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	<b>観点①</b> 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる。				
	<b>観点②</b> 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	<b>観点③</b> 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)  ○新体力テスト  【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	7	現代高等保健体育	【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
3	11	現代高等保健体育	【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
	12		【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	1		
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	選抜文系	3	具志堅
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版), 『2026共通テスト対策問題集Vol.4国語現代文』(河合出版) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)</p> <p>情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。</li> <li>・問題は予習として解いてくる。ノートにまとめる。</li> <li>・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。</li> </ul>				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		大学過去問 共通テスト対策問題集	読解問題の演習
2		大学過去問 共通テスト対策問題集	読解問題の演習
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	文学国語	進学文系	2	宮城
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	準拠ワーク（数研出版）、共通テスト対策問題集4国語 現代文（河合塾）、読解を深める現代文単語（桐原書店）				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> ノートの内容に工夫があり、単元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	<b>観点①</b> 語句等の知識（30点）、文学史等（10点）選択肢（接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等）（10点）				
	<b>観点②</b> 演習問題・記述式 （内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等）（50点）				
	<b>観点③</b> 予習（5点）、感想・まとめ（5点）、授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）				
授業のねらい・進め方・注意点	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。				
図書資料の活用	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1. 『ひよこの眼』 山田詠美	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
	5	<b>中間考査</b>	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
	6	2. 『檸檬』 梶井基次郎	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
1	7	<b>期末考査</b>	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
	※共通テスト対策問題集は順次行う		
	9	4. 『舞姫』 森鷗外	明治の小説を読み、内容解釈し考えを深める。 文学的文章を読み、創作する。
2	10	<b>中間考査</b>	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
	11	5. 『物語のおわり』 湊かなえ	文学的文章を読み、創作する。
	12	<b>期末考査</b>	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
3	※共通テスト対策問題集は順次行う		
	1		
	2		
3	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	古典探究	進学文系	5	下園
教科書	『精選 古典探究』大修館書店 3年次では主に「古文編・漢文編II」を扱う				
副教材	・教科書準拠学習ノート ・古典の手引きおよび学習ノート ・精説漢文 昨年に引き続きとして ・漢文入門 ・古文単語330				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする</p> <p>漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>現代語訳などができ、登場人物などの心情や作品の主題を理解する</p> <p>作品がその後の文学に与えた影響を考える</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業ノートでは、予習・復習を表現し、工夫する。ワークは直しをしっかりと行う。</p> <p>小テストでは高得点を目指し、授業内では積極的に話し合い発言する。</p> <p>2学期に行うプレゼン発表では積極的に行う</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p> <p>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>1年次で学習した「言語文化」は、古文、漢文、近代現代小説から成り立っていた。「古典探究」では古文と漢文を深く学習する。古文や漢文を学習することで当時の人の感性を理解することができる。また、当時の人と現代人との感性を比較することで、われわれ現代人が当たり前と考えている感性を見直すことができる。そのためには、文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。授業では音読、ペアワーク、問題演習などの活動を通して、古文や漢文の解釈に必要な知識や技法を身につけていく。それに伴い、スケールテストにも対応できる学力を身につけていく。また3年次では『源氏物語』について探究を行う。2年次では触れる時間のなかった作品に触れることで探究を進めていく。</p>				
図書資料の活用	<p>岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。解釈に関わる本を読む。</p>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ノートの取り方・受け方ガイダンス 『枕草子』二月つごもり	・工夫の仕方、予習について説明 ・助動詞と係助詞と敬語の理解
	5	(GW課題：『古典の手引き』助動詞の復習) 『十八史略』水魚の交わり ※古文助動詞の識別 【中間考査】 『源氏物語』若紫 『大鏡』鶯宿梅	・用言の復習、随筆の理解 ・三国時代への理解 ・仮定・疑問の復習 ※古文単語：1-50.151-180 ・源氏物語についての理解・敬語の理解 ・大鏡についての理解・助動詞識別
	7	漢文：思想p318～  ※漢文句法の復習 【期末考査】	・諸子百家について学ぶ  ※古文単語：51-150
2	9	『史記』列伝 勿頸の交わり 『蜻蛉日記』町の小路の女	・『史記』の理解・句法の復習 ・平安時代の婚姻の形式についての理解 ・和歌の理解
	10	※入試問題演習 【中間考査】 『源氏物語』について ・須磨	※古文単語：181-280
3	11	・源氏物語に登場する女性についてプレゼン ・紫の上の死 ※入試問題演習 【期末考査】	・中国の歴史的背景について ・句法の理解 ・源氏物語の影響について ・敬語について ※古文単語：281-330
			※上記に加えて初見問題に触れていく(週1~2)

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	世界史発展	選抜文系	5	内田
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート（世探704準拠）				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	<b>観点①</b> 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。				
	<b>観点②</b> 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	<b>観点③</b> 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	近世以降の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
図書資料の活用	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	教科書 副教材	1 アジア交易世界の興隆 1 オスマン帝国とサファヴィー朝	
	5		2 ムガル帝国の興隆 1 ルネサンス 2 宗教改革	
	5	3 主権国家体制の成立		
	6	4 オランダ・イギリス・フランスの台頭		
1	7	期末考査	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	
	9		教科書 副教材	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄
	10			3 アメリカ合衆国の発展
2	10	中間考査	4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	
	11		1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	
	11		1 第2次産業革命と帝国主義	
講習	冬講習	3学期特別授業	2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	
	1		1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	
	2			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	世界史演習	選抜文系	2	内田
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート（世探704準拠）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。</p>				
	<p>観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。</p>				
	<p>観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	近世以降の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
図書資料の活用	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成
	5	中間考査	1 冷戦の展開
	5		
	6		2 第三世界の台頭とキューバ危機
	7	期末考査	3 冷戦体制の動揺 1 産業構造の変容
2	9	教科書 副教材	2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相
	10	中間考査	
	10		問題演習
	11	期末考査	
講習			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	日本史 発展	選抜 文系	5	脇本
教科書	山川出版詳説日本史探究				
副教材	日本史重要語句Check List(啓隆社) 図説日本史通覧(帝国書院)				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。 ：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。 ・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	・授業に関連する図書室資料を紹介する。 ・赤本を紹介する。 ・課題で、書籍や新聞を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 副教材	幕府の滅亡 明治維新 自由民権運動 立憲国家の成立 日清日露戦争 産業革命
	5月下旬	教科書 副教材	大正・昭和初期の外交 大正・昭和初期の経済 第二次世界大戦 GHQ占領政策 戦後の外交・政党政治 高度経済成長からバブル崩壊へ
	7月上旬	期末考査	
2	9月	教科書 副教材	飛鳥白鳳文化 天平文化 国風文化 鎌倉文化 室町文化 安土桃山文化
	10月下旬	教科書 副教材	元禄文化 化政文化 文明開化 明治の文化 大正の文化 現代の文化
	12月上旬	期末考査	
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	日本史 演習	選抜 文系	2	小倉
教科書	山川出版詳説日本史探究				
副教材	日本史重要語句Check List(啓隆社) 図説日本史通覧(帝国書院)				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。 ：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。 ・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関連する図書室資料を紹介する。</li> <li>・赤本を紹介する。</li> <li>・課題で、書籍や新聞を活用する。</li> </ul>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 副教材	GHQ占領政策 民主化政策 憲法と政党 占領政策の転換 朝鮮戦争
	5月下旬	教科書 副教材	講話と安保条約 55年体制の成立 安保条約の改定 保守政権の安定
	7月上旬	期末考査	
2	9月	教科書 副教材	朝鮮特需と経済復興 高度経済成長 ドル危機と石油危機 高度経済成長の終焉
	10月下旬	教科書 副教材	経済大国の実現 バブル経済と市民生活 冷戦から地域紛争へ 55年体制の崩壊
	12月上旬	期末考査	
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	選抜文系	3	芳野
教科書	『詳述 政治・経済』 実教出版				
副教材	○『詳述 政治・経済 演習ノート』 実教出版 ○担当者作成のテキスト・問題集				
評価基準	<b>観点① 知識・技能</b> ○現実社会の諸事象を通して、国内/国際経済に関する概念や理論を理解している ○現代の諸課題解決に必要な情報を、諸資料から効果的に収集し、正確に読み取っている				
	<b>観点② 思考力・判断力・表現力</b> ○経済活動の活性化、またそれに伴う福祉の向上について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、その中で果たす日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現している				
	<b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b> ○講義受講者どうしの対話によって、自分の考えなどを広げたり深めている ○情報手段の活用により、自分自身で課題の追求や解決の見通しをもっている				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	<b>観点①</b> ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	<b>観点②</b> ○経済の特質について理解したうえで、諸課題解決の方策を考察できる ○考察内容を他者と議論し、その妥当性や実現可能性を判断できる				
	<b>観点③</b> ○自身の考察を他者に伝え、他者との議論を通じてより深い考察ができる ○諸課題解決のプロセスを通じて自ら新たな課題を発見し、その課題解決に取り組むことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：現代国内/国際経済のしくみを理解し、主体的に諸課題の解決に取り組むための基礎的な能力を身に付ける 授業の進め方：担当者作成のテキストを使用した講義を基本とし、学習した内容を活用できるようなワークを実施予定です。初回授業・授業中の指示に従ってください。 注意点：授業という与えられたことをこなすだけでなく、よりよい社会の形成のために自分はどう行動すべきか考えてください。				
図書資料の活用	○『朝日中高生新聞 まとめてわかる！ニュース1週間』をはじめ、複数の新聞社による記事の参照 ○授業内容に合わせ、適宜書籍や映画を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	○教科書	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義  第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ  第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業 4 環境保全と公害防止
	5	○副教材	
	6		
2	7		第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業 4 環境保全と公害防止  第3章 現代経済と福祉の向上 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割  第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー
	9	○教科書	
	10	○副教材	
	11		
	12		
※大学入学共通テスト・私立大学の「公共」・「政治経済」受験予定者は、申し出てください。			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	ECIII	選抜文系	4	山崎
教科書	FLEXIII				
副教材	英語長文読解Praxis リンケージ英語構文100				
評価基準	観点① 知識・技能 単語・文法を理解し正しく運用ができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 英文の中で単語や文法の意味を理解し正しく解釈・運用ができる				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業の音読活動・ペアワークに積極的に取り組むことができる 課題に取り組み提出物を期限までに提出することができる 小テストや長期休みの課題に丁寧に取り組みことができる				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・英語の入試問題に取り組み、国内外の文化や問題の理解を深める。・4技能のうち特にreading,listeningに重点を置き、入試問題に取り組んでいく。授業の音読活動やペアワークを通し理解を深めていく。これまでに学習した品詞分解を自分で運用しながら速読箇所と精読箇所を見分け、読解していく力を身に着ける。・参考書を用いた自主学習への取り組み方を身に着ける。・観点③には授業時の音読活動・ペアワークの参加姿勢の他、長期休み中の課題やリンケージの取り組みも反映させる。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	praxis	長文読解演習
	5	※1学期から2学期の中間考査までにpraxisを終えます。 リンケージ1-25	
1	6	praxis	長文読解演習
	7	リンケージ26-50	
2	9	praxis	長文読解演習
	10	リンケージ51 - 75	
	11	※2学期中間考査以降は大学入試問題に取り組みます。	
	12	リンケージ76-100	
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理・表現III	選抜文・理	4	山崎・石井
教科書	FACT BOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、客観式問題に回答することができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法知識を応用し、初見の問題に回答することができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業時のペアワークや小テスト、提出物の取り組みで評価する。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	大学入試問題に取り組み、英語運用能力を養う。この授業では4技能のうち主にWritingとListening分野に重点を置く。適宜小テストやペアワークを行う。				
図書資 料の活 用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS	Sect.1~2 6回分
	5	リスニングプレノート	
		中間考査	
	6	PLUS	Sect.4~6 6回分
7	リスニングプレノート		
		期末考査	
2	9	PLUS	Sect.7~9 6回分
	10	リスニングプレノート	
		中間考査	
	11	PLUS	Sect.10~12 6回分
12	リスニングプレノート		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	英語演習I	選抜文系	2	久保田 祐正
教科書	Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版)				
副教材					
評価基準	<p>観点① 知識・技能 *テキストの英文で、構文解釈、和訳ができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 *初見の英文で、構文解釈、和訳ができる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 *授業内外で課す課題に取り組んでいる。(この項目は出来不出来ではなく、取り組みを評価する)</p>				
テスト・評価方法	<p>授業内テストで、1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末を実施 上記テストは全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>英文和訳メインの、読解1技能ベッタリの授業となります。なぜ今時こんな授業があるかというと、4技能重視の時代の中で、英文法に基づく正確な解釈をする機会が、今の高校生にはほぼないからです。しかし私たちが外国語として、ましてや日本語とは全く言語構造が異なる英語を正確に習得するには、実は「古い」と言われる英文解釈、訳読も、上位大学の英語読解や資格試験の高得点に至る過程では必要なのです。 一方で、12月までしかない2単位の授業内で全ての演習をこなすことは不可能です。授業外学習課題もそれなりに課していきます。量的に苦しいかもしれませんが、上の段落の通り、正確さが生命線になります。決して「わからない」を放置せず、一文ずつ、確実に取り組んでください。</p>				
図書資料の活用	特になし				

授業の計画 テスト範囲は都度指示します。

学期	月	教材	内容																																																						
1		<table border="1"> <thead> <tr> <th>課</th> <th>レッスontitle</th> <th>Clue No</th> <th>Clue タイトル</th> <th>ページ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①</td> <td rowspan="2">名詞(句)を説明するカタマリを見ぬく</td> <td>clue 1</td> <td>名詞(句)を後ろから説明する分詞句を見ぬこう!</td> <td rowspan="2">4</td> </tr> <tr> <td>clue 2</td> <td>名詞(句)を後ろから説明する節(S+V)を見ぬこう!</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td rowspan="2">基本構造を見ぬく</td> <td>clue 3</td> <td>目的語のカタマリに注意して、文構造を見ぬこう!</td> <td rowspan="2">6</td> </tr> <tr> <td>clue 4</td> <td>前置詞のあとは、名詞(句・節)がくる!</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③</td> <td rowspan="2">挿入を見ぬく</td> <td>clue 5</td> <td>接続詞 that の直後の副詞句[節]の挿入を見ぬこう!</td> <td rowspan="2">8</td> </tr> <tr> <td>clue 6</td> <td>主語の直後に続く&lt;S+V&gt;の挿入を見ぬこう!</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④</td> <td rowspan="2">同格の関係を見ぬく</td> <td>clue 7</td> <td>名詞(句)と名詞(句)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう!</td> <td rowspan="2">10</td> </tr> <tr> <td>clue 8</td> <td>名詞(句)と that-節(=名詞節)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう!</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑤</td> <td rowspan="2">並列関係を見ぬく</td> <td>clue 9</td> <td>and / but / or は、「同じ働きをする」語(句)と語(句)をつなぐ!</td> <td rowspan="2">12</td> </tr> <tr> <td>clue 10</td> <td>and / but / or は、「同じ働きをする」節と節をつなぐ!</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑥</td> <td rowspan="2">it の用法を見ぬく(1)</td> <td>clue 11</td> <td>あとから現れる句や節をさす形式主語の it を見ぬこう!</td> <td rowspan="2">14</td> </tr> <tr> <td>clue 12</td> <td>あとから現れる句や節をさす形式目的語の it を見ぬこう!</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑦</td> <td rowspan="2">it の用法を見ぬく(2)</td> <td>clue 13</td> <td>&lt;It is[was]+名詞(句)+that+不完全な文&gt;は強調構文の可能性!</td> <td rowspan="2">16</td> </tr> <tr> <td>clue 14</td> <td>&lt;It is[was]+副詞(句・節)+that+完全な文&gt;は強調構文!</td> </tr> </tbody> </table>	課	レッスontitle	Clue No	Clue タイトル	ページ	①	名詞(句)を説明するカタマリを見ぬく	clue 1	名詞(句)を後ろから説明する分詞句を見ぬこう!	4	clue 2	名詞(句)を後ろから説明する節(S+V)を見ぬこう!	②	基本構造を見ぬく	clue 3	目的語のカタマリに注意して、文構造を見ぬこう!	6	clue 4	前置詞のあとは、名詞(句・節)がくる!	③	挿入を見ぬく	clue 5	接続詞 that の直後の副詞句[節]の挿入を見ぬこう!	8	clue 6	主語の直後に続く<S+V>の挿入を見ぬこう!	④	同格の関係を見ぬく	clue 7	名詞(句)と名詞(句)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう!	10	clue 8	名詞(句)と that-節(=名詞節)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう!	⑤	並列関係を見ぬく	clue 9	and / but / or は、「同じ働きをする」語(句)と語(句)をつなぐ!	12	clue 10	and / but / or は、「同じ働きをする」節と節をつなぐ!	⑥	it の用法を見ぬく(1)	clue 11	あとから現れる句や節をさす形式主語の it を見ぬこう!	14	clue 12	あとから現れる句や節をさす形式目的語の it を見ぬこう!	⑦	it の用法を見ぬく(2)	clue 13	<It is[was]+名詞(句)+that+不完全な文>は強調構文の可能性!	16	clue 14	<It is[was]+副詞(句・節)+that+完全な文>は強調構文!	
		課	レッスontitle	Clue No	Clue タイトル	ページ																																																			
		①	名詞(句)を説明するカタマリを見ぬく	clue 1	名詞(句)を後ろから説明する分詞句を見ぬこう!	4																																																			
				clue 2	名詞(句)を後ろから説明する節(S+V)を見ぬこう!																																																				
		②	基本構造を見ぬく	clue 3	目的語のカタマリに注意して、文構造を見ぬこう!	6																																																			
				clue 4	前置詞のあとは、名詞(句・節)がくる!																																																				
		③	挿入を見ぬく	clue 5	接続詞 that の直後の副詞句[節]の挿入を見ぬこう!	8																																																			
				clue 6	主語の直後に続く<S+V>の挿入を見ぬこう!																																																				
		④	同格の関係を見ぬく	clue 7	名詞(句)と名詞(句)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう!	10																																																			
				clue 8	名詞(句)と that-節(=名詞節)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう!																																																				
		⑤	並列関係を見ぬく	clue 9	and / but / or は、「同じ働きをする」語(句)と語(句)をつなぐ!	12																																																			
				clue 10	and / but / or は、「同じ働きをする」節と節をつなぐ!																																																				
		⑥	it の用法を見ぬく(1)	clue 11	あとから現れる句や節をさす形式主語の it を見ぬこう!	14																																																			
				clue 12	あとから現れる句や節をさす形式目的語の it を見ぬこう!																																																				
⑦	it の用法を見ぬく(2)	clue 13	<It is[was]+名詞(句)+that+不完全な文>は強調構文の可能性!	16																																																					
		clue 14	<It is[was]+副詞(句・節)+that+完全な文>は強調構文!																																																						
2		⑧	関係代名詞の用法を見ぬく(1)	clue 15	<名詞+前置詞+関係代名詞>で1つのカタマリをつくることもある!	18																																																			
		clue 16	<先行詞+前置詞+関係代名詞>を副詞的に訳すと、自然な場合がある!																																																						
		⑨	関係代名詞の用法を見ぬく(2)	clue 17	関係代名詞の直前にある名詞(句)が先行詞とはかぎらない!	20																																																			
				clue 18	関係代名詞や疑問詞(+〜)の直後の I think などは、挿入と考えよう!																																																				
		⑩	分詞構文を見ぬく	clue 19	文頭・文末などに置かれた分詞構文を見ぬこう!	22																																																			
				clue 20	前に with のついた独立分詞構文を見ぬこう!																																																				
		⑪	比較を見ぬく	clue 21	than のあとの倒置は、「主語と主語」の比較!	24																																																			
				clue 22	文末に置かれない比較対象(than ...)に注意しよう!																																																				
		⑫	省略を見ぬく	clue 23	省略表現は、前文や文の前半から「元の形」を考えよう!	26																																																			
				clue 24	比較対象(than ... や as ...)の省略に注意しよう!																																																				
⑬	倒置を見ぬく	clue 25	副詞句 / C のあとに <V+S> が続けば、<S+V+副詞句 / C> の倒置形!	28																																																					
		clue 26	否定を表す副詞(句)のあとに続く文は、「疑問文と同じ語順」の倒置形!																																																						
⑭	名詞構文を見ぬく	clue 27	動詞の名詞形は、元の動詞に戻して考えてみよう!	30																																																					
		clue 28	形容詞の名詞形は、元の形容詞に戻して考えてみよう!																																																						
⑮	仮定法を見ぬく	clue 29	仮定法の文中に倒置形がある場合は、if の省略を考えよう!	32																																																					
		clue 30	if-節のない仮定法を見ぬこう!																																																						

## 3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材教具	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末)</li> <li>□ マイナビテキスト「探究の進め方」</li> <li>□ 昨年度から使用している探究ノート</li> <li>□ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。</li> </ul>
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 志望先学校について深く知る</li> <li>2. 志望理由書の書き方を学ぶ</li> <li>3. 志望理由書を書き、添削を受ける</li> <li>4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する</li> <li>5. 論文の書き方を学ぶ</li> <li>6. 論文を作成する</li> </ol>
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する</li> <li>2. スライドをも用いて発表する</li> <li>3. 発表について評価を受け、改善する</li> <li>4. 他学年に代表者が発表する</li> </ol>

三学期	
-----	--

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める</li> <li>・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。</li> <li>・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリックを意識した行動を心がける。</li> <li>・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。</li> </ul>

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。</li> <li>②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。</li> <li>③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。</li> <li>④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。</li> <li>⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。</li> <li>⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。</li> <li>⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。</li> </ol>	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>